

四、野津親久代惟親軍忠状

解説

建武五年（一三三八）正月、足利尊氏追討のために陸奥から西上してきた北畠顕家に對し尊氏は、北朝方の軍勢に南都警護を命じたらしく、野津親久はこの命に應じて同月十二日、南都に発向し警護の陣に着いた。本文書は、この南都警護の事実を大友惣領家に報告するとともに、その証拠を京都に提出し、幕府の認定を求めたもの。当時、尊氏軍の宿將的存在であった石橋和義の証判を受けている。